

第6回地区説明会 質問・意見の概要

適正規模・統合について

質問・意見	市の見解
統合後に職員が増えない、サポートがつかないと聞いたのだが実際はどうか知りたい。	国の基準では1学級最大40人、県の基準では、小学校1～3年生が35人学級、4～6年生が38人学級となり、学級数に応じて教員の数も決まります。 教員が増えることで、教員同士の切磋琢磨による授業力の向上が見込まれます。また、事務量も細分化できるため、結果的に子どもと接する時間が増えることにつながります。 大和田小と坂田小が統合した場合の学級人数については、今後の状況によりますが、500人以上になる見込みです。
統合した場合の学級人数を知りたい。	単学級より複数学級の方が、学年職員も増員され、事務作業も分担できます。多数の教員で子どもたちを教育することにより、負担が軽減されることとなります。
子どもの数が増えることで、テストの採点等の事務作業が増え、教員の負担が増すのではないか。	施設改修は、今後、具体的に設計をしたうえで決まるため、最大で2年半の期間を予定しています。 施設改修だけでなく、事前交流を行うことで、統合前から人間関係を築くなど、子どもたちにとって、より良い教育環境の整備を目指してまいります。
統合のタイミングが中途半端だと感じる。また、費用の話ではなく、子どものための取り組みをしてほしい。	本市の進める学校再編の理念は、子どもたちにとってよりよい教育環境を目指し、学校の活性化を推進することであり、今回の第2次実施プログラム(案)については、その理念に基づき作成しました。大和田小・坂田小は、隣接する周西中や君津高校とともに、その立地条件を活かして、これまでも教育連携を盛んに行っていました。今回は、大和田小・坂田小の統合を軸に、その連携を「さらに発展」させた教育環境を整えることを目指しております。 その具現化には、周西中と君津高校の間に位置し連携がとりやすいという点、また、学校再編基本計画にもあるように既存施設の有効活用を踏まえ、施設の状況などを総合的に判断し、統合校の使用校舎を坂田小としました。
統合自体は賛成だが、大和田小より規模の小さい坂田小を使用校舎とした理由が知りたい。決定事項なのか。	
わざわざ、小さい施設に行く必要はない。大きい施設を利用すればよいと考える。	
坂田小は、グラウンドや体育館などが狭い。	
坂田小で施設改修ができて、なぜ大和田小でできないのか、理由を知りたい。施設がきれいな方がよいのは当たり前である。	
なぜ坂田小校舎を使うのか。	
校舎の耐用年数が、大和田小が18年、坂田小が30年と言っているが、12年は大きな差だと認識している。どのように調査をしたのか、教えてほしい。	耐用年数については、コンクリート圧縮強度試験の結果をもとに日本建築学会の基準を参考に算出したものです。 コンクリートは、外気温に影響を受けやすく、施工精度等も含めて強度が変わってくるので、同じ時期に建築した建物であっても強度に差が出ることがあります。
大和田小を改修することで長く保たせることができず、坂田小を改修することで長く保たせることができるのか。	躯体の改修を伴う施設の長寿命化は、今後30年以上使用することが可能な施設を対象としております。

第6回地区説明会 質問・意見の概要

<p>学校開放で、坂田小体育館を利用しているが、体育館は雨漏りしてカビもすごい。子どものためになるのか。体育館の状態を分かってほしい。</p>	<p>統合に伴う児童数の増加に対応するため、間取りの変更や教室の増築を行い、不足のないように施設改修を検討してまいります。</p>
<p>坂田小体育館も老朽化が進んでいる。子どもたちが喜ぶように新しくしてほしい。雨天時の送迎では危険を感じるので、駐車場の確保等をお願いしたい。</p>	<p>また、坂田小体育館の雨漏りについては、その都度修繕で対応してまいりましたが、老朽化が進んでいるため、統合を機に大規模改修または改築等の対策を検討してまいります。</p>
<p>坂田小体育館の雨漏りがひどく、大和田小体育館の方が広いのに、なぜ坂田小を使うのか教えてほしい。坂田小の教室は足りるのか教えてほしい。</p>	<p>なお、駐車スペースにおいては、外構整備等により敷地の有効活用を検討するほか、隣接する学校の空いているスペースを使用できるか検討してまいります。</p>
<p>普通教室の数は大和田小で37教室、坂田小で20教室であり、子どもが増えて足りなくなることも考えられるので、大和田小を使用した方がよい。</p>	
<p>坂田小の校舎で本当に学習環境がよいのか。</p>	
<p>坂田小の駐車スペースについて、大丈夫なのか。</p>	
<p>躯体の状態等の調査内容の資料の開示は可能か。</p>	<p>公表できるものについては、公表してまいります。今後、ご要望がありましたら、PTAの会議など説明に伺います。</p>
<p>躯体の状態の資料を確認したい。</p>	
<p>大和田小と坂田小の統合に伴う工事の内容を教えてください。</p>	<p>工事期間については、令和4年度から最大で2年半を考えています。工事内容は、学校再編基本計画の「既存の学校施設・設備を最大限有効活用する」ことを基本としており、統合校にふさわしい改修となるよう努めます。</p>
<p>工事費用がいくらかかるのか、教えてください。</p>	<p>工事費用については、今後どのような改修が必要となるのか検討した上で、具体的に設計することにより決定します。</p>
<p>使用校舎が坂田小と決まったのはいつか。</p>	<p>立地条件や、児童数の推移、施設の状況などを総合的に判断した上で決定し、今回の説明会において、初めて坂田小が使用校舎となることを説明いたしました。</p>

第6回地区説明会 質問・意見の概要

通学について	
質問・意見	市の見解
<p>人見2丁目、中富などの大和田小学校区の中で、周西小に通っている子はどう考えているのか。中富の子で、周西小の通学路を通り、踏切を渡って大和田小へ通っている子もいる。教育委員会も通学状況を確認してほしい。</p>	<p>周西小、大和田小のどちらに通うかという指定校変更については、基本的にご家庭の判断としております。通学状況については、教育委員会でも現状把握に努めていますが、危険と思われる未確認の場所については、今後随時、状況確認をまいります。</p>
<p>大和田小の子どもが坂田小に通うとき、通学路についてはどう設定するのか。大和田小を今後使わなくなると通学路の治安の面が不安である。西坂田の住宅街を通れば心配ないと思う。</p>	<p>カーブ等の見通しの悪い箇所があることや、雨天時に起こり得る状況など、様々なケースを実際に見て、子どもの安全を守る対策を考えております。今後、通学路の安全については、統合準備室の通学部会や通学路安全対策協議会などで、関係機関と連携を図り、子どもたちの安全面を確保できるよう取り組んでまいります。通学路については、安全を確認しながら、学校と協議し決めてまいります。</p>
<p>子どもたちが、良い環境で勉強できれば全く問題ない。しかし、子どもの安全安心の点から、使用校舎を坂田小とすることに賛成できない。統合で、学区が広がるので、通学は難しいのではないのか。</p>	
<p>通学に関して、安全面は大丈夫なのか。</p>	
<p>統合すると通学距離が長くなるので、安全確保や子どもの不安がなくなるような配慮をお願いしたい。</p>	
<p>安全・安心を第一に、子ども目線で考えてほしい。</p>	
<p>子どもたちが登下校の際に、大きい道路を渡ることが危険だと考えるので、安全を第一に考えてほしい。</p>	
<p>雨天時の送り迎えで危険を感じるので、駐車場の確保等をお願いしたい。</p>	
<p>大和田小まで、通学距離が約4kmの児童がいる。坂田小に通学すると約4.5kmになると思う。安全対策として、コミュニティバスなどを出してもらえるのか。</p>	<p>統合には、通学区域の拡大、通学路の変更が伴います。通学路の点検や児童への登校指導を充実させ、安全確保に努めます。通学時間が長くなることによる安全対策については、学校・保護者・地域関係者・警察等関係機関と安全確保に努めるとともに通学手段も含めて協議してまいります。</p>
<p>統合後に通学距離が長くなることで、通学時間も長くなる。始業時間を少し遅らせる等の対応はできるのか。</p>	<p>統合校の始業時刻や下校時刻については、統合に向けた統合準備室を組織し、大和田小と坂田小で検討してまいります。</p>
<p>最初の説明の中で、坂田小学区から大和田小や周西小を希望すると通学できるようになるという話があったが、どの程度希望があるのか。</p>	<p>「学区の弾力化」に伴う指定校変更については、次年度小学校に入学する予定の児童の保護者から何件か申込みがあります。</p>
<p>大和田自治会の中で、大和田4・5丁目が大和田小学区になっているので、大和田小学区に見直してほしい。</p>	<p>保護者アンケートや大和田小での指定校変更の状況等を踏まえ、今回のプログラムでは、見直しをしておりません。今後、状況を見ながら検討してまいります。</p>
<p>説明を聞いていろいろ考えてくれていると思った。学区を柔軟にといいのはありがたい。</p>	<p>今後も、子どもたちや保護者にとって、安全で安心して通学できるよう努めてまいります。</p>

第6回地区説明会 質問・意見の概要

特色ある学校づくりについて

質問・意見	市の見解
<p>統合は賛成だが、坂田小にした理由の一つに、中高の間にあるとの説明があった。中学との連携は大和田小でも現状取り組んでいて、大和田小でそれは可能だと思う。中高の間にあるからというのは、坂田小を使用する理由にならないのではないか。</p>	<p>現在も小中高で教育連携を図っていますが、さらに発展した教育連携となることを目指しています。高校生が小学校に来ることが多いのが現状ですが、今後は小学生が高校に行くなど、双方向での連携を活性化していきたいと考えています。したがって、立地条件を最大限に活かした教育活動を展開していくためにも、大和田小よりも中高の間にある坂田小を使用することが望ましいと考えております。</p>
<p>キャリア教育、学力向上、体力向上、生徒指導など、すでに小中学校が連携している。小中一貫なども取り組んでいくことで効果があると思う。市教委で連携して取り組んでほしい。</p>	<p>今後は、拠点校におけるノウハウを蓄積し、また、特色ある学校づくりの成果や効果を検証しつつ、市内全域における学校への導入・拡大を目指してまいります。</p>
<p>特色ある学校づくりの成果を、拠点校だけでなく他の学校にも展開し広めていく、という話が以前の説明であったが、成果は広めているのか。</p>	
<p>特色ある学校づくりは、拠点校でやるのではなく、市全体に広げるべきだと思う。今回は、君津高校だけが取り上げられているが、他にも高校があるので、その取組を広げてほしい。</p>	
<p>コミュニティ・スクールの他にも取組があるが、数値化した検証をお願いしたい。思わぬ欠点や課題が出てくるので公開しながら進めてほしい。</p>	
<p>小中一貫は、教員の負担になると感じる。キャリア教育、小中一貫など、先生方がどこまで受け入れ実施していけるのかが心配である。</p>	<p>教員の負担感等についても、最大限配慮していきたいと思っております。</p>
<p>キャリア教育、コミュニティ・スクールなど、目指す方向性には賛成である。しかし、プログラムになると指定された学校の職員には、プレッシャーがかかるので、もっとグレードを下げてもいいのではないかと。</p>	
<p>説明にあったキャリア教育を詳しく教えてほしい。人見こども園との連携も説明されていたが、他の私立保育園等との連携はしないのか。</p>	<p>キャリア教育は、子どもたちが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成するものです。そのため、数多くの体験が必要であり、その一つとして、日本製鉄等との連携があります。世界的な企業である日本製鉄を中心に、様々な職種がある地域であり、子どもたちが多くの職種に接する機会を作ることができます。子どもたちの可能性を伸ばし、広い視野を持って、様々な選択肢に触れられるよう努めてまいります。また、保育園や幼稚園との連携についても、人見こども園との連携をベースに広げていきたいと思っております。</p>
<p>キャリア教育について、日本製鉄が近く、君津市に若い人が残ってほしいという思いもあるが、様々な職業を選べるようにしていただきたい。また、子どもたちのよさや可能性を伸ばす教育を大切にしてもらいたい。</p>	
<p>キャリア教育について、前向きに将来を考えなければならぬと押しつけられそうで不安がある。</p>	
<p>説明にあった特色ある教育に、地域の活性化につながる将来性を感じるのでぜひ進めてほしい。</p>	<p>特色ある教育は、地域の人材活用など、地域・社会・産業界などと密接に連携した取組や実践となるため、地域の活性化にもつながるものと考えております。</p>
<p>小中一貫校の目的が中1ギャップ解消なら、早く実施すべきである。そして、学校の適正規模は2クラスでなく、3クラスだと感じる。</p>	<p>今後も児童生徒数の推移を見極めつつ、最低限クラス替えができるよう学校規模の適正化を推進してまいります。</p>
<p>(小櫃・上総地区の)4つの地域の連携について心配している。コミュニティ・スクールの準備はいつ頃から進めるのか。それぞれの特色がある4つの地域なので、あまりあせって進めてもよくないと思う。</p>	<p>周西南中・周西小の事例では、コミュニティ・スクール導入の前年度に推進委員会を設置し、情報共有等を進めました。小櫃・上総地区においても、導入の前から準備を進めていくとともに、研修等も充実させていきたいと考えております。</p>

第6回地区説明会 質問・意見の概要

<p>上総小櫃中学校が開校する。それぞれの地域には伝統があり、様々な行事等を行っていると思うが、運営協議会の中で、各地域の特色がある中で、折りがつけられるのかどうか難しいと思う。</p>	<p>学校運営協議会は、各地域を1つに統一するわけではありません。各地域の様々な伝統などについて、共通点や相違点を情報共有しつつ、学校や地域のために何ができるのかを協議してまいります。</p>
<p>コミュニティ・スクールではどのようなことを進めているのか、地域住民にもっとオープンにしてもらえれば意見を届けられると思うので、情報を発信してもらいたい。</p>	<p>周西南中学校区の事例としては、昨年度、プールや校外学習の見守りなどを行いました。また、地区の敬老会やお祭りへの参加なども行っています。今後、学校の力を地域に広める取組にも力を入れていきたいと考えています。コミュニティ・スクールの周知については、学校のホームページや運営協議会だよりで行っていますが、今後さらなる周知に努めてまいります。</p>
<p>コミュニティ・スクールとあったが、主な取組や活動は授業内で行うものなのか。あるいは休日にも行うものなのか。</p>	<p>授業や学校行事と関連させて実施する場合は、授業の時間となりますが、地域に学校の力を活かす活動などは、休日なども視野に入ります。活動日時については状況に応じて進めていくこととなります。</p>
<p>コミュニティ・スクールの導入よりも日々の教育に注視していただき、無理をしないでほしい。統合間近の学校は、いろいろとやることがあり不安であるので、まずは足元を固めてほしい。統合に関する地域の課題は山積している。いろいろやるには、お金もかかるから、そちらに使うのではなくスクールバスや職員の加配などに使ってほしい。統合したからと言うのであれば、周東中学校区でやればよいのではないか。</p>	<p>コミュニティ・スクールについては、統合に伴い学区が拡大するため、学校と地域の活性化を図るうえでも、必要なシステムとして導入を考えております。当然、統合に向けた準備も着実に進めてまいります。今後は、周西南中学校区における取組の良いところを取り入れながら、地域の実情に合った十分な協議を重ねていきたいと思っております。</p>
<p>コミュニティ・スクールというが、小櫃地区はずでに地域の協力はあある。</p>	<p>コミュニティ・スクールは、これまでの学校と地域におけるつながりの継続性と安定性を高めるものでもあります。国の方針でも、コミュニティ・スクールを全校に広めていくことが示されておりますので、各地区における地域の力をさらに発展させていきたいと思っております。</p>
<p>4校が統合することになるが、各校の歴史やこれまでの歩みを大切にしていってほしい。上総小櫃中学校の一室に、各校の歴史や歩みがわかる展示スペースをつくってほしい。</p>	<p>対等な立場での統合を理念として、学校再編を進めているので、各校の歴史や伝統は当然継承されるべきものと考えております。新しい教育課程の中で、子どもたちが自分の地域の伝統を紹介したり、他の地域の伝統を学んだりすることは、各校の歴史や伝統を尊重する有意義な活動の一つであると考えます。</p>
<p>これまでの4校の歴史があり、その上に、上総小櫃中の歴史の第一歩がある。4校の歴史と歩みを展示する場所をぜひつくってほしい。統合に向けて準備をしている今だからこそできることだと思う。</p>	<p>展示スペースについては、要望として承ります。</p>
<p>各地域の文化や伝統はとても重要であるが、子どもたちの減少で継承も難しくなっていく懸念がある。統合で関わる子どもたちが増えることで、継承の幅の広がりにも期待している。4つの地域のよさを理解し合い継続していくように、これからを担う子どもたちのために力を使う過渡期だと思う。</p>	
<p>学校評議員とは何か。</p>	<p>学校教育法施行規則の改正により、地域住民の学校運営への参画の仕組みを制度的に位置付けるものとして学校評議員制度が導入されております。開かれた学校づくりの推進を趣旨に、地域社会の声なき声を伝える「仲介役」であり、学校の「助言者・応援団」として、全ての学校に設置されております。年に数回集まって、授業など学校行事を参観し、学校への感想や意見等を伺い、よりよい学校運営に反映してまいります。</p>

第6回地区説明会 質問・意見の概要

第3次実施プログラム以降について

質問・意見	市の見解
適正規模でない八重原小・北子安小・外箕輪小は、第3次実施プログラムで方針を決めるということになると思うが、具体的な意思決定は、住民の方や保護者を含めて検討するのか。今後の方針の決め方が分かれば教えていただきたい。	八重原小、北子安小、外箕輪小は適正規模を満たしていない状況であり、喫緊の課題となっています。学区の状況から、隣接学区も含めた統合と通学区域の見直しが必要だと考えます。通学区域の見直しについては、児童生徒の推計や学校施設の状況や立地、通学路の状況等を分析し、学区の状況を熟知している学校関係者と協議を重ねながら進めていきたいと考えております。第3次実施プログラムの案は、令和2年度を目途に作成し、パブリックコメントや地区説明会を通して、保護者や地域の方のご意見等を伺いながら決定していきたいと考えております。 また、学校と地域との関わり合いもあるため、地域の活性化にも配慮しながら進めていきたいと考えます。
子どもたちは、地域の将来を担う人たちであり、再編は地域の将来を大きく活性化、あるいは維持していく上で大事だと思う。第3次の統合の仕方と、学区の見直しについて詳しく教えてもらいたい。一番問題になっていることも教えてほしい。	
保護者からすると、子どもが安全に行って帰ってきてほしいというのが一番だと思う。第3次案では、学区も入り組んでいるので、安全面や将来に向けて考えていただきたい。	
北子安小が八重原小に統合される案、外箕輪小が八重原小に統合される案、八重原小が北子安小や外箕輪小に分かれる案もあっていいと思う。	
第1次実施プログラムで特に成果のあった点、そして第2次実施プログラム以降に生かせるような点を教えてほしい。	統合準備室をはじめ、子どもたちが統合後の不安を払拭できるよう、統合対象校間で事前交流を計画的に実施し、子ども同士の交流や親睦を深められたことは成果であり、今後にも活かせるものだと認識しております。
八重原小は、古くて老朽化が進んでいるのでどのような工事を想定されるか教えてほしい。	八重原小学校を統合校として使用する場合には、既存施設を有効活用しながら、どのような施設が統合校にふさわしいかを見極め、方向性を決定していきます。

再編の進め方

質問・意見	市の見解
統合について子どもに聞いたら、通い慣れた学校で卒業するならよいと言っていた。修学旅行に知らない人と行くのは抵抗があると言っていた。	子どもたちの円滑な接続を目指し、事前交流を学校間で計画的に実施してまいります。
今回のプログラム案はあくまでも案なのか。押し付けているように聞こえる。	今回のプログラムは現段階での案となります。なお、11/14から1ヶ月間、パブリックコメントを実施し、2月までにプログラムをまとめたと考えております。要望がありましたら、説明に伺います。
案を覆せるのか。	
今後のスケジュールについて確認したい。	
スケジュールについて、決定までの期間や時間が足りないのではないか。問題が山積しているのであれば、解決してから決定してほしい。	
子どもに意見を聞いたのか。説明をしないのか。	子どもたちの教育環境を整えるのは、大人の責任であり、教育委員会で対応してまいります。本市では中学校合同生徒会という取組があり、そこで意見を聞いたことはあります。
本日の意見の回答は、どのタイミングで示してくれるのか。知らないところで決定されてしまうのか。	意見集約後、ホームページ等でお示ししていきたいと思っております。要望がありましたら、説明に伺います。
校名は、今後どのように決定していくのか。	校名については、学校や保護者、地域関係者で構成される統合準備室を中心に、地域の思いを尊重した学校名について協議し決めていきます。また、公募等、校名の決め方についても検討してまいります。

第6回地区説明会 質問・意見の概要

その他、学校再編に関すること

質問・意見	市の見解
<p>利用可能な体育館は、有効活用してほしい。</p> <p>現在、君津市内の学童保育はどこも定員いっぱいである。統合後に使用しなくなる校舎を広域的に受けられる学童保育として利用できないか。</p>	<p>跡施設の利活用については、地域の思いを考慮しながら進めていきます。また、災害時の避難所のあり方についても、市が一体となって考えてまいります。</p>
<p>使用しなくなる施設の利活用について、災害時の避難所等も考えて、学校再編と一緒に進めてほしい。</p>	
<p>地域にとって学校は、活力源、ステータスであり、とても大切である。跡施設の利用についても地域住民の思いを汲んで進めていただきたい。</p>	
<p>跡施設のことについて、全庁あげて取り組むとあったが、進捗を伺う。跡施設についての美化作業や維持は誰が行うのか。</p>	<p>跡施設の利活用は、全庁をあげて取り組んでおりますが、現在も使用している施設の利活用は、決まっております。維持管理についても、併せて検討してまいります。</p>
<p>君津特別支援学校への進学を考えているが、人数がいっぱいであると聞いている。統合になるのなら、使用しない校舎を特別支援学校にしてはどうか。</p>	<p>特別支援学校は、過密化の状況であることは把握しております。所管する県教育委員会の動向を踏まえ、今後検討していくこととなります。</p>
<p>工事中、学童はどうなるのか。フルタイムで働いている保護者には必要なものであるから考えてほしい。</p>	<p>学童保育の活動場所について、工事期間中は坂田小校舎の一部を使用することはできない見通しで、大和田小校舎に移動することが予想されます。本市としても、子育てしやすい環境の充実を踏まえ、検討してまいります。</p>
<p>改修工事は具体的にどのようなものか。学童は、学校施設内にあるが、改修工事中はどうなるか。</p>	
<p>学童は、放課後の児童のあり方に関わるので、組織を立ち上げて検討してほしい。運営母体は、現在父母会が行っている。市が運営母体になってほしい。</p>	
<p>統合は学童保育にとっても重要な問題であるので、説明会には子育て支援課も出席すべきである。引越が生じた場合、市で負担してほしい。</p>	<p>貴重なご意見として承ります。</p>
<p>学校開放について、坂田小の改修期間中は、坂田小の体育館は利用できるのかどうか知りたい。もし、坂田小に統合した場合、大和田小の体育館は利用できるのかどうか知りたい。</p>	<p>工事期間中は、坂田小体育館は利用できない見通しです。坂田小を使用校舎とした場合は、大和田小体育館が利用できるかについての協議、または、他の施設を使用することになると考えます。今後、学校開放運営委員会において、検討していくこととなります。</p>
<p>学校開放について、どうなるのか教えてほしい。</p>	
<p>学校の校舎は地域にとっては、避難場所にもなるわけなので、地域とのつながりを考えて再編してほしい。</p>	<p>学校と地域のつながりは密接なものであり、今後も地域とのつながりや地域活性化に配慮した再編をこれからも進めてまいります。</p>
<p>少子高齢化が進んでいく中で、児童が高齢者から学ぶ、あるいは高齢者が児童から学ぶといった地域の年代を超えた教育環境を整えてほしい。</p>	<p>教育活動における地域とのつながりは、学校で指導計画の中に組み込まれています。地域の方々が子どもたちの学習をサポートするような取り組みが始まっておりますので、市内全校にも紹介してまいります。地域の方々が学校教育に関わることで、地域の活性化にもつながっているというご意見もいただいております。</p>

第6回地区説明会 質問・意見の概要

人をもっと呼び寄せるとか、教育以外にも考えなくてはいけないことがある中で、今のことだけを取り上げることは、君津の将来が全然見えないと感じる。

君津市の人口減は、若い子育て世代の流出が一つの要因となっています。この世代にいかに本市にとどまっていただくかが重要となります。子育ては、家庭だけではなく、地域全体で取り組むような仕組みが大事です。先行して学校再編は取り組んでおりますが、市が一体となって進めていきます。また、第3次まちづくり実施計画にも人口減少の抑制は重点施策としておりますので、様々な取組の中で対応したいと考えております。

第6回地区説明会 質問・意見の概要

<p>市町村合併によって、合併しない市町村より住民が減ったということがあるが、今回の場合、同じように現在の児童生徒数がそのまま、統合後に児童が減らずにということがあるのか、それともある程度減ることを想定しているのか。</p>	<p>統合することで児童生徒数が減少してしまうのではないかと懸念については理解できます。学校再編は、統合によって活力ある魅力的な学校づくりを理念として掲げておりますので、より多くの子どもたち、児童生徒が集まってこられるように取り組んでまいります。</p>
<p>君津市をどのようなまちにしていくかを、みんなで考えていけば、すべて解決すると考える。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございました。今後も市長部局と一体となって進めてまいります。</p>
<p>今日配られた冊子に入っている地図が市のホームページにのっていないので、ぜひのせてほしい。</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございました。</p>